

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	超高齢化社会の進展に向け、誰もがいつでもどこへでも気軽に移動できるモビリティ整備を望む声は多く、国の補助制度と連携し、ノンステップバスの導入を促進する必要があります。	● 高 ○ 低
有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	誰もがバスに楽に乗り降りでき、バスを利用した移動の利便性や安全性の向上を図り、みんなが快適に暮らせるまちを目指します。	● 高 ○ 低	
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	国が定める基本方針ではバス車両に関し、平成27年までに低床化されたバスに切り替えることとし、さらにそのうちの20%から30%をノンステップバスとすることを目標としています。	● 高 ○ 中 ○ 低	
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	バス事業者に対する国との協調補助を活用します。	● 高 ○ 中 ○ 低	
今後に向けた課題の分析 近年、国の予算配分より全国の申請額が上回っています。今後も、協調補助により計画的な導入を図られるよう国との連携を密にします。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			—	ノンステップバス 導入の支援	ノンステップバス 導入の支援	ノンステップバス 導入の支援	ノンステップバス 導入の支援	ノンステップバス 導入の支援
財源 内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	5,766	6,000	6,000	6,000	6,000
事業費 (A)		0	0	5,766	6,000	6,000	6,000	6,000
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.00	0.25	0.15	0.15	0.15	0.15
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	0	2,098	1,254	1,254	1,254	1,254
フルコスト (A+B)		0	0	7,864	7,254	7,254	7,254	7,254

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input checked="" type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 国が定める基本方針に基づき、整備目標を達成するため、計画的なノンステップバスの導入を図ります。	
平成22年度 of 取組方針	
国の調整率が微増していることから出来る限り早期に導入することで、コスト削減につながる可能性を検討します。	
課長コメント	誰もがいつでもどこへでも気軽に移動できるための手段の一つとしてノンステップバスの導入は必要な施策であり、目標達成に向けて継続していくべきものと考えます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	—	①：予定どおり
主な取組と成果		—	国との協調補助により予定の5台が導入できました。
検証結果	—	—	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		近年、国の予算配分より全国の申請額が上回っており、今後計画的な導入が図られるかが、課題となる。	近年、国の予算配分より全国の申請額が上回っています。今後も、協調補助により計画的な導入が図られるよう国との連携を密にします。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		現状の規模で継続	国の調整率が微増していることから出来る限り早期に導入することで、コスト削減につながる可能性を検討します。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業評価シート（平成20年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	総合交通計画策定事業		
事業担当	まちづくり政策部 まちづくり政策課		
予算科目	01-080401-060000	事業種類	○ ハード ● ソフト
総合計画の位置付け	05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	03	③〈利便性〉誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める	
	03	3 まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民等	事業期間	平成20年度～平成21年度
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input checked="" type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： 市民、交通事業者、関係団体等】		
目的・目標		事業の概要	
長期的な見通しに立った交通需要に基づいて、道路、鉄道、バス、駐車場や新たな交通システムの導入など、総合的な交通ネットワークの形成が図られ、交通利便性・快適性及び安全性が高まっています。		交通需要への対応と交通利便性の向上を図るため、市内・外に及ぶ鉄道網、バス網、道路網など、長期的な交通施策の基本的な計画を策定します。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
成果指標①	指標名	計画策定進捗率						単位	%
	説明・算定式	H20：基本方針策定60% H21：交通計画策定40%							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標		—	60	100				
	実績			60					
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標								
	実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
総合交通計画策定のために現状における課題の整理やその課題の解決に向けた基本的な考え方を整理しました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 市民ニーズ <input type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	平塚駅を中心とした交通が錯綜し道路渋滞の発生や路線バスの定時性速達性の低下などの交通問題の解消に向け、上位計画である都市マスタープランの実現に向け市が策定する必要があります。
有効性	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	平塚市総合計画、第2次都市マスタープラン及びかながわ交通計画に即し、20年後の交通需用を展望した総合的な交通マスタープランを策定し、上位計画の具現化につなげます。	● 高 ○ 低
妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	将来の交通需用への対応と交通利便性の向上を図るため、道路網、鉄道網、バス網、駐車場や新たな交通システムの導入など総合的な交通計画を策定します。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input checked="" type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	計画策定にあたり、専門的な知識を有するコンサル会社へ委託します。また、学識経験者など幅広い意見聴取を行います。	● 高 ○ 中 ○ 低
今後に向けた課題の分析 段階的な整備プログラムを策定し、実施に向けた具体的な検討が必要となります。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			—	基本方針の策定	総合交通計画の策定			
財源内訳	国庫支出金	0	0	5,000	6,000	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	0	5,500	6,000	0	0	0
事業費 (A)		0	0	10,500	12,000	0	0	0
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.00	0.95	1.00	0.00	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	0	7,972	8,356	0	0	0
フルコスト (A+B)		0	0	18,472	20,356	0	0	0

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 平成21年度において総合交通計画が策定されます。	
平成22年度 of 取組方針	
課長コメント	一極集中の都市構造による様々な交通問題に対応するため、また、高齢社会や環境問題への対応のためにも、重要な事業であると考えます。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	—	①：予定どおり
主な取組と成果		—	総合交通計画策定のために現状における課題の整理やその課題の解決に向けた基本的な考え方を整理しました。
検証結果	—	—	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		総合交通計画の策定にあたり、市民の意見や提案を踏まえ、交通事業者や交通管理者など様々な関係者を交え、検討を行う必要がある。	段階的な整備プログラムを策定し、実施に向けた具体的な検討が必要となります。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	終了
取組方針		平成20年度に行う基本方針を踏まえ、整備計画を策定する	
事業区分	—	実施計画事業	—

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

1. 事業の位置付け

事務事業名	東雲橋・玉川橋架替事業		
事業担当	土木部 道路整備課		
予算科目	01-080205-020000	事業種類	● ハード ○ ソフト
総合計画の位置付け	05	基本目標5 安全で、みんなが快適に暮らせるまち	
	03	③〈利便性〉誰もが快適に利用できるよう、公共施設などの利便性を高める	
	03	3 まちの活動に活力をもたらす公共交通の利便性を高める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民	事業期間	～平成21年度
委託、協働	【委託： <input type="checkbox"/> 3セク・財団 <input type="checkbox"/> 企業 <input type="checkbox"/> NPO <input type="checkbox"/> その他】 【協働： <input type="checkbox"/>		
目的・目標		事業の概要	
老朽化した橋の架け替えにより、良好な交通環境の提供や景観との調和が図られています。		橋の老朽化と慢性的な交通渋滞を解消するため、東雲橋と玉川橋を同時に架け替えます。	

2. 事業の検証

活動指標①	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
活動指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
成果指標①	指標名	橋りょう整備進捗率						単位	%
	説明・算定式	累計橋りょう整備／橋りょう整備合計 H19年度：桁製作・架設35%、H20年度：橋面仕上げ39%、H21年度：取付け道路整備17%							
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績		44	83	100				
成果指標②	指標名							単位	
	説明・算定式								
		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	
	目標実績								
進捗状況	①：予定どおり								
	遅れている理由								
平成20年度の主な取組と成果									
平成21年3月末に東雲橋、玉川橋の2橋が同時開通しました。									
平成20年度の検証結果	A：成果があがった								

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	橋の老朽化と慢性的な交通渋滞が解消でき、必要性は高いと考えます。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input checked="" type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	東雲橋、玉川橋との同時完成により、交通の結接点における円滑な進行が確保でき、有効性が高いと考えます。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	公共交通の利便性から妥当性は高いと考えます。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input checked="" type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input type="checkbox"/> その他	東雲橋、玉川橋との架け替え工事を同時期に行うことにより、工期等の短縮が図れるなど効率性が高いと考えます。	● 高 ○ 中 ○ 低	
今後に向けた課題の分析 2橋の完成に伴い、今後は適正な維持管理を行うこととなります。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			桁製作・架設工	橋面仕上げ	取付道路などの整備			
財源内訳	国庫支出金	0	209,975	26,115	0	0	0	0
	県支出金	0	2,503	2,503	1,000	0	0	0
	起債	0	115,600	11,585	0	0	0	0
	その他 特財	0	0	5,689	0	0	0	0
	一般財源	0	366,469	87,226	14,570	0	0	0
事業費 (A)		0	694,547	133,118	15,570	0	0	0
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	1.45	1.45	0.50	0.00	0.00	0.00
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	12,167	12,167	4,178	0	0	0
フルコスト (A+B)		0	706,714	145,285	19,748	0	0	0

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 事業目的の達成により終了となります。	
平成22年度取組方針	
課長コメント	計画どおり、平成21年3月に2橋完成し、橋の老朽化や交通渋滞の解消を図りました。 県・市協調し、平成21年8月までに仮設橋と仮設道路の撤去を行います。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		東雲橋は桁製作・架設工、高欄工を行った。 玉川橋は、神奈川県が実施する桁製作・架設工にかかる費用の本市分を負担した。	平成21年3月末に東雲橋、玉川橋の2橋が同時開通しました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		東雲橋と玉川橋の架替事業は一体的な工事であり、玉川橋は県が施行、東雲橋は市施行のため、県・市協調して事業に取り組む。	2橋の完成に伴い、今後は適正な維持管理を行うこととなります。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	終了
取組方針		取付道路等の整備を行う。	
事業区分	—	実施計画事業	—

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	周辺地域の幹線道路を相互に連絡することになり、地域の骨格を形成する幹線道路の整備の必要性は高いと考えます。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	幹線道路を整備することで交通混雑の緩和が図られ、有効性が高いと考えます。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	住環境の向上と交通の円滑化のため妥当性が高いと考えます。	● 高 ○ 中 ○ 低
	効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	幹線道路と幹線道路とが連結されることにより、交通体系の効率性が高まります。	● 高 ○ 中 ○ 低
今後に向けた課題の分析 幹線道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めます。				

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			用地買収、測量設計	用地買収、測量設計	用地買収、測量設計	工事、用地買収・補償、測量設計	工事、用地買収・補償、測量設計	工事、用地買収・補償、測量設計
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	60,000	30,000	70,000
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	55,158	47,802	23,355	59,045	36,724	69,694
事業費 (A)		0	55,158	47,802	23,355	119,045	66,724	139,694
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	0.85	0.45	0.75	0.75	0.75	0.75
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	7,133	3,776	6,267	6,267	6,267	6,267
フルコスト (A+B)		0	62,291	51,578	29,622	125,312	72,991	145,961

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
<input type="checkbox"/> 現状の規模で継続 <input checked="" type="checkbox"/> 拡大して継続 <input type="checkbox"/> 縮小して継続 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 他事業と統合	
<判断理由> 継続事業の他、新規整備路線の測量、用地買収、工事等計画的に事業を進めます。	
平成22年度の取組方針	
真土金目線、金目神戸線等の用地買収を効率的に進めます。	
課長コメント	幹線道路を整備することにより、交通混雑の緩和を図り、地域の住環境の向上を目指します。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		金目・神戸線の用地買収、物件移転補償契約を行った。 真土・金目線の拡幅計画について、地元説明会を行った。 これらの取組により、幹線道路整備への事業進捗を図った。	真土金目線の測量調査設計や金目神戸線の用地買収、物件移転補償契約を行いました。これらの取組により、幹線道路整備への事業進捗を図りました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		幹線道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めたい。	幹線道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めます。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	拡大して継続
取組方針		金目・神戸線の用地買収を効率的に進めたい。また、継続して真土・金目線の測量調査委託を行う。	真土金目線、金目神戸線等の用地買収を効率的に進めます。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 市民ニーズ <input checked="" type="checkbox"/> 事業目的の達成状況 <input checked="" type="checkbox"/> 市の関与の必要性 <input type="checkbox"/> その他	周辺地域の幹線道路を相互に連絡し、かつ、地域の骨格を形成する都市計画道路の整備の必要性は高いと考えます。	● 高 ○ 低
	有効性	<input type="checkbox"/> 上位施策への貢献 <input checked="" type="checkbox"/> 市民満足度を高める方策 <input type="checkbox"/> 継続による成果向上の可能性 <input type="checkbox"/> その他	都市計画道路を整備することで、周辺地域の交通混雑の緩和が図られ、有効性が高いと考えます。	● 高 ○ 低
	妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 事業の目的、対象、内容 <input type="checkbox"/> 受益者負担、補助額 <input type="checkbox"/> 業務の執行体制(人員配置、業務分担) <input type="checkbox"/> その他	住環境の向上と交通の円滑化のため妥当性が高いと考えます。	● 高 ○ 中 ○ 低
効率性	<input type="checkbox"/> 業務プロセス改善による効率化の方策 <input type="checkbox"/> コスト削減の可能性 <input type="checkbox"/> 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) <input checked="" type="checkbox"/> その他	幹線道路と幹線道路とが連結されることにより、交通体系の効率性が高まります。	● 高 ○ 中 ○ 低	

今後に向けた課題の分析

都市計画道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めます。

3. 年度別事業内容・事業費

(単位：千円)

		平成18年度 決算額	平成19年度 決算額	平成20年度 決算額	平成21年度 予算額	平成22年度 試算額	平成23年度 試算額	平成24年度 試算額
事業内容			仮設道路賃借料	用地買収・街路整備	用地買収・街路整備	用地買収・補償	工事、用地買収・補償	工事、用地買収、測量
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	7,150	15,400	35,200	19,800
	県支出金	0	0	0	0	0	0	0
	起債	0	0	0	0	60,000	60,000	20,000
	その他 特財	0	0	0	0	0	0	0
	一般財源	0	1,177	21,678	168,150	77,541	93,742	34,741
事業費 (A)		0	1,177	21,678	175,300	152,941	188,942	74,541
執行率 (%)		—	—	—				
内訳	職員 (人)	0.00	1.40	0.80	0.85	0.85	0.85	0.85
	再任用 (人)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
人件費 (B)		0	11,748	6,713	7,103	7,103	7,103	7,103
フルコスト (A+B)		0	12,925	28,391	182,403	160,044	196,045	81,644

4. 今後の事業展開 (担当課としての提案)

平成22年度の事業の方向性	
● 現状の規模で継続 ○ 拡大して継続 ○ 縮小して継続 ○ 廃止 ○ 休止 ○ 終了 ○ 他事業と統合	
<判断理由> 街路整備事業として北金目真田線、五領ヶ台南線の用地買収に取り組みます。	
平成22年度の取組方針	
北金目真田線は、国庫補助金事業として実施します。	
課長コメント	街路(都市計画道路)を整備することにより、交通混雑の緩和を図り、地域の住環境の向上を目指します。

5. 事業展開の経緯

	平成18年度事業分	平成19年度事業分	平成20年度事業分
進捗状況	—	①：予定どおり	①：予定どおり
主な取組と成果		平塚山下線の測量調査委託（繰越）や、五領ヶ台南線の用地買収交渉を行った。これらの活動を通じて、事業進捗を図った。	平塚山下線の整備や、五領ヶ台南線の用地買収に向けて準備を進めました。
検証結果	—	A：成果があがった	A：成果があがった
	平成20年度への展開	平成21年度への展開	平成22年度への展開
今後に向けた課題		都市計画道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めたい。	都市計画道路の整備は用地買収、物件補償、工事費等相当な費用を要するため、計画的に事業を進めます。
事業の方向性	—	現状の規模で継続	現状の規模で継続
取組方針		平塚山下線や北金目真田線は、国庫補助金事業として実施する。	北金目真田線は、国庫補助金事業として実施します。
事業区分	—	実施計画事業	実施計画事業

※実施計画事業評価は、昨年度の事業を評価し、来年度の予算編成の参考としています。